

学習内容報告書 フォーマット

学校名	佐世保市立宇久中学校
授業者	森田 学 尾田祐介 前川忠浩 松尾匡敏 (宇久高校)

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

自分で釣るイカの解剖

1-2. 学年

2年 (7名)

1-3. 教科 (単元を実施する教科を全てお書きください)

理科

1-4. 単元の概要

イカの解剖における理科のカリキュラムの位置づけは、軟体動物のからだのつくりを学ぶために行う。その際に、内臓を傷つけないための解剖ばさみの使い方などの基本的操作も実際に行う。動物のからだのつくりについては、ヒトのからだのつくりをはたらきとそのつくりについて詳しく学習する。また、セキツイ動物や無セキツイ動物のからだのつくりの違いや無セキツイ動物であっても、節足動物と軟体動物の違いなど幅広く学ぶことで、それらの差異から理解を深めるものとする。

また、地域の海洋資源を学ぶという側面もある。生徒にとってイカの採取は、単なる日頃の「イカ釣り」にすぎないかもしれないが、そこから海洋について学ぶことで地域を学び、さらにイカの生態や人とイカのかかわりを学ぶことができる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

海洋生物の観察について、地域の海に生息する身近なイカを実際に採取することによって、イカの生態やからだのつくりを解剖することで学習する。また、生徒の中には、イカ釣りをほとんど経験したことがないものもいて、地域における体験学習の一環としても実施した。さらに、イカの採取については、地域の人材活用として、「イカ釣り」が得意な大人やお年寄りに声をかけ、地域との交流も目指している。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

地域に生息を実際に採取することで、その生物の生態系や環境を調べる態度を育てる。また、採取した生物を解剖、観察することで、からだのつくりやはたらきを他の生物と比較しながら説明できる能力を育成する。さらに以上2点から、地域の海洋における親しみや感謝の態度を育成する。

1-7. 単元の展開（全6時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>○無セキツイ動物の分類について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的ななかまについて例をあげ、分類する。 <ul style="list-style-type: none"> → 節足動物（甲殻類、昆虫類、クモ類など） （外骨格をもち、からだをささえている。） → 軟体動物（頭足類、腹足類、貝など） （外套膜をもち、えら呼吸をするなかま） 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常授業で、画像や動画を使用し学習する。 （教科書および資料集）
1	<p>○イカ採取の事前準備について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イカ採取をするために必要な用具を確認する。 ・イカ採取の概要を説明する。 ・これまで自分自身が体験したことがある、なしの確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な用具があれば、こちらで地域の方と事前準備を行う。 ・教員の役割確認を行う。 ・事前に保護者にも、本授業計画を周知し、協力を募る。
1	<p>○イカ採取について注意事項について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸壁で採取活動を行うため、安全指導を行う。 ・実際の採取に必要な道具の使い方を知る。 ・イカの習性をしり、竿の動かし方や餌木のサイズなどを検討する。 ・現地への移動も含む 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具 レンタル竿、餌木、ライフジャケット 移動用のバス ・地域の人材 通常イカ釣りをされる地域の人材3名
1	<p>○イカの採取を各自、行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸壁のポイントに移動し、準備した仕掛けを各自海に設置する。 ・何度も餌木を投げ、リールを巻きながらイカを引き寄せる。 ・釣れた場合には、理科室の冷凍庫で保管する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に注意させる。必ずライフジャケットを着用させる。 ・来た時よりも、きれいに後片付けをさせる。
1	<p>○イカの解剖を行い観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導にそって、解剖する。 ・外套膜、えら、肝臓、墨袋などからだのつくりを確認しながら、解剖する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷凍したイカを自然解凍する。 ・解剖ばさみを含め、解剖操作の説明をする。 ・終了後、きちんと手を洗うことを確認する。
1	<p>○解剖した結果から軟体動物の特徴をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無セキツイ動物における軟体動物の特徴を前時のイカの特徴を押さえながらまとめ、分類するための手がかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無セキツイ動物の特徴である。からだをどのようにささえるかを考えさせ、水中にすむなかまの特徴を考えさせる。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・地域の海にいるイカを採取し、地域の海の様子を知る。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 道具の準備をする。	・必要な道具 レンタル竿、餌木、ライフジャケット 移動用のバス
2 バスで移動する。	・地域の人材 通常イカ釣りをされる地域の人材 3 名と指導内容の確認。
3 イカ釣りのしかけの説明を聞く。	・地域の方より、説明を受ける。 ・仕掛けのつけ方、竿の投げ方、リールの引き方など
4 イカ釣りを始める	・安全に注意させる。必ずライフジャケットを着用させる。
5 採取できた時の確認	・できるだけ傷をつけないように、餌木からはずし、チャック袋に入れる。
6 道具の撤収及び掃除、かたづけ	・来た時よりも、きれいに後片付けをさせる。
7 バスで帰校	
8 採取したイカを冷凍する。	・帰校後、十分に手洗いをするように指導する。

3. 今回の活動の自己評価

目標を次の2点に設定していた。

- ① 地域におけるイカ釣りを通して宇久島の海とのかかわりを再認識し、海の資源への感謝と釣り場の環境を自分たちの手で美化する機会とする。
- ② 理科のカリキュラムである「イカの解剖」を自分で釣ったイカで行うことで、命の大切さと生物への興味・関心を高めるきっかけとする。

それぞれ自己評価を行うと

- ① これまで、各自の趣味でイカ釣りを行っていた生徒はいたが、初めての生徒もいた。身近な海と生物としてのイカに学校の授業を通して、接することができたことはとても意義があると思う。また、地域の方の協力も得られ、地域連携の取組としても実施することができた。
- ② 次の時間に「イカの解剖」を行ったが、実際に海から採取したものを解剖できたため、通常における理科の授業に比べ、目的意識や関心意欲が高く、取り組めた。

4. 今後の課題

思うようにイカの採取ができなかったため、時期や時間を調整する必要がある。また、港湾をきれいにする目標もあったが、思ったよりもきれいで、海が汚れている印象は少なかった。海をきれいにすることを目標とすれば、あまり人が寄り付かない砂浜にたくさんのゴミが押し上げられているため、そちらでの研修でそれだけの課題での取組をしたほうがよい。また、マイクロプラスチックゴミの採取も検討しているが、海水から採取するよりも、海浜から砂を採取して、それに付随しているマイクロプラスチックを比重で分類するほうがいいのかもわからない。次年度の計画につなげたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にありません。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。